

長崎の林業

小曾根星堂書



卒業記念の植樹活動（左：五島、右：島原）

3

目次

● 林政だより	林業就業支援講習～諫早市文化会館～	2～3
● 特集記事	特用林産物生産林家 亀石リツ子さん	4～5
● 林業普及だより	壱岐における搬出間伐の取組み	6
● 地方だより・島原	雲仙百年の森づくりの会による植樹活動一島原一	7
● 地方だより・五島	平成30年度 翁頭中学校卒業記念植樹	8
● 林業団体情報	平成31年春季の緑の募金活動期間が始まりました!!	9
● センターだより	創立120周年を迎えて一近年の研究成果一	10
● 紹介コーナー	お箸工房 楽膳	11
● 栗の植樹体験	「くろんたふるさと会」一諫早市高来町一	12



ながさき
森林環境税

2019
No.762

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！



この用紙は、日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより



講習の趣旨

林業就業支援講習は、厚生労働省委託事業として全国森林組合連合会が各都道府県にて実施するものです。林業への就業を希望する原則45歳未満の方を対象に、基礎知識、林業体験、職場見学を行うとともに、個別の就業・生活相談を実施することで、林業に就職するために必要な知識や資格を身につけ、林業への円滑な就職を支援することが目的です。

今回は、4名の方が受講されました。

講習の概要

講習は下記内容を4日間で実施しました。

- ①林業の基礎知識
 - 林業の動向
 - 山村の現状と活性化
 - 木材需給や木材価格
- ②安全衛生講習
 - 労働災害の現状と対策
 - 林業における健康管理
 - チームワークとコミュニケーションの重要性
- ③実地講習
 - 刈払機・チェーンソー作業の見学
 - 高性能林業機械等の見学
 - その他各種林内作業の見学
 - ノコギリでの丸太切り
- ④林業関係施設等見学会
 - 林業・木材施設等の見学
- ⑤就業・生活相談
 - 林業への就職相談や現場作業員への生活相談

林業の基礎知識と安全衛生講習

講習の初日は、県林政課から「林業・山村地域の現状」、「長崎県の森林・林業」「主な林業樹種とその特性」「森林の多面的機能」についての基本的なことを受講しました。林業・木材製造業労働災害防止協会長崎県支部の大宅師範による林業における労働災害の現状や安全対策のあり方についてなど、幅広い内容の講義が行われました。

林業関係施設等見学会

二日目以降は、間伐の作業現場（諫早市）や(株)伊万里木材市場（伊万里市）、県央木材協同組合（諫早市）、高島建設工業(株)プレカット事業部（諫早市）を見学しました。長崎南部森林組合諫早支所に勤務する若手専門作業員との意見交換、林業事業体も含めた就業相談会が行われました。



(株)伊万里木材市場での研修



県央木材協同組合での研修



高島建設工業(株)プレカット事業部での研修



若手専門作業員との意見交換

就業・生活相談

就業相談会には長崎南部森林組合、雲仙森林組合、(株)長崎林業の3者の出席があり、業務内容等の説明がありました。受講生は、就職にあたって最重要視される労働条件として、賃金、休日・休暇、社会保険等についてがあり、終了間際まで熱心な情報収集に取り組まれていました。



就業・生活相談の様子

今後に向けて

講習修了者のアンケート結果では、林業を選択肢の1つとして検討すると回答した方がほとんどでした。また、林業就業を具体的に目指す方には、今後のマッチング等を長崎県労働力確保支援センターと連携して支援していきたいと考えています。



修了生の皆様

(林政課普及指導班)



【特集記事】
特用林産物生産林家
亀石リツ子さん

平戸市主師町でシキミやサカキなどのお供え物や縁起物を栽培している亀石リツ子さん。民放の人気番組で紹介され、50年ぶりの知り合いからも電話がかかってきたそうです。

仕事場兼お住まい

亀石さん（81才）がお住まいの平戸市主師町は、生月大橋のかかる海岸線から、平戸最高峰である安満岳（標高530m）にまで及ぶ広い町です。人家の絶えた林道に導かれ深い照葉樹林や大きく育ったスギ・ヒノキ林その先にポツンと亀石さんのご自宅が建っています。

農業と林業の境界

丹精込めて栽培したシキミやサカキは、花き卸売りを営まれているご長男の睦郎さん（58才）が市場に出されているそうです。

昭和63年頃から近くの山々で今は亡きご主人豊作さんとお二人、種を採集するところからスタートしたという栽培地を見せていただくと、ちょうど林業と農業の境界上の仕事と言えるかもしれません。当のご本人にとっては、「植えて」、「育てて」、「収穫する」という山の営みを続けているということのようです。同じく一家で植え

育てたスギやヒノキの大径木を伐り出すことも収穫という言い方をされるのが印象的でした。

道程—みちのり—

棚田で知られる春日集落にリツ子さんが嫁いで来たのは、昭和34年のこと。舅さん・姑さんとともに、牛を飼い、田畑で耕作する一方、山に出掛けマツ、スギ、ヒノキを収穫するという暮らしでした。

年を重ね、ふもとの集落と山とを行き来する暮らしは体力的にもだんだんきつくなってくるもので、たいていの人は里を下りましたが、この一家のした選択は「山の方に移り住む」という全く逆のものでした。

生後半の長女を背に2歳になったばかりのご長男睦郎さんの手を引いての道程でした。明かりはランプ、電気は風力発電、水は沢から自分で引いてくる、そんな暮らしだったそうです。当初は、ふもとの暮らしと同じく、牛を飼い、田畑を耕しながら、

林業も営むというスタイルでした。水を引いていた沢が凍り、500m程離れた池へ水汲みに通った話などされるリツ子さんの語り口は、あくまでひょうひょうと、そして来し方をいとおしむかのようです。

リツ子さんご夫婦の代に代わり、低迷しつつあった素材生産に見切りをつけ、現在の特用林産物一本でやっていく決断をするのは、移住後30年近く経った昭和60年初頭のことです。

手わざ

サカキをお供え物としてきれいに仕立て束ねる作業を見せていただきました。枝ぶりや葉の付き具合を見て、即座に配置を決め、徒長した枝を切り詰め束ねていきます。ためらいの無い手つきで、ただ無造作に束ねているように見えてしましますが、粗朶の束だったものが、あっという間に厳かなお供え物になっていて、目を見張るようでした。

「こげんしとけば、買うてくれた人はそのまま神棚に供えられるやろう？買う人もいろいろ選んで買わずけん、ちゃんとしとらんやったら売れ残ってしまう。」リツ子さんはそう語ります。

おとぎ話

あるとき、仕事を終えて、当時飼っていた犬のマリと一緒に晩御飯を食べているときのこと、ひょいと勝手口の方を見ると、かまちに前足をかけた一匹のウリ坊がリツ子さんを覗き込んでいたと言います。

あっけにとられながらも、食べ物を投げよこしたら、それから毎日のようにやって来るようになったのだそうです。以来ウリ坊は「花子」と名付けられ、家のなかに上がり込むことも許されるようになりました。いつもどこからもなくフラリとやって来る花子を、リツ子さんは心待ちにするようになりました。リツ子さん以上に花子は犬のマリと仲良しになりました。見せてい

ただいた写真には、仲良く昼寝する二匹が写っていたのもありました。

またある日、今度は勝手口から、一匹のタヌキが覗き込んでいます。今度も、パンの耳をあげたら、毎日やってくるようになりました。花子もこの新参者にとって意に介するものではなかったそうです

一軒家とその主のそばが居心地よく感じた生き物はまだいます。いつのまにかカラスも毎日やって来て、花子の鼻先で彼女の餌をついばむようになりました。リツ子さんとマリと花子とタヌキ、それにカラスが一羽。その様子を頭に思い浮かべた私は思わず、「まるでおとぎ話だ！」と口にしてしまいました。

やがて、マリが亡くなり、花子も来なくなってしまっ、おとぎ話の第一章は幕を閉じたそうで、そう話すリツ子さんはさすがに寂しそうでした。

冒頭のテレビ番組取材のときのエピソード

「外で撮るとき、『はい、立ってください。次はちょっとしゃがんで、はい、また立って』といそがしか事じゃった。よか健康体操ばさしてもろたちゅうて笑うたとやった。」

この様子だと、おとぎの一軒家は当分続いていきそうです。

(NPO法人 地域循環研究所)



林業普及だより

壱岐における搬出間伐の取組み

これまでの間伐

壱岐においては、島内に壱岐産材の購入需要が無く、また、人工林面積が少なく保育対象林分もまだ多いことから、これまで間伐は伐捨間伐のみを実施してきました。そのため、島内唯一の林業事業者である壱岐市森林組合は、本格的な搬出間伐については未経験でした。

搬出間伐の実施に向けて

今年度、壱岐市内の県営林で1.4ha程度の、壱岐で初めてとなる搬出間伐に取り組むこととしました。事業者は壱岐市森林組合で、初の搬出間伐と作業道開設となるため、事業の実施前に研修を受けていただくこととしました。

まず、壱岐市森林組合の職員、作業員の方々に、対馬市内の現場の視察を行っていただきました。対馬振興局及び対馬森林組合のご協力を得て、現地を案内していただき、実際の作業道開設の状況や造材の方法等を見ながら、作業をどのように進めているか等ご説明いただきました。



対馬市視察：プロセッサによる造材

壱岐で予定している造材方法はチェーンソー造材ですが、対馬で同様な方法で採材をされている現場にも案内していただき、大変参考になったと思います。



対馬市視察：チェーンソー造材

また、その翌週には対馬市の林業事業者、(株)西林の西山社長に壱岐市に来島いただき、実際の施業地で作業道開設や採材方法等についてご指導いただきました。作業道の開設演習等を行いながら具体的に現地でアドバイスを受け、今後の施業に非常に有効な内容となりました。



壱岐県営林内での現地研修

今後について

この原稿の作成時点では、今年度の本格的な搬出間伐作業は始まっていませんが、研修の成果を生かして、効率的な作業と収益性の高い採材ができるよう取り組んでいきたいと思っております。

(壱岐振興局 農林整備課)

地方だより

雲仙百年の森づくりの会による植樹活動 — 島 原 —



2月13日（水）、島原市千本木において、第21回島原半島高校生卒業記念植樹が行われました。

この活動は、地元のボランティア団体である「雲仙百年の森づくりの会」（宮本秀利会長）が主催し、雲仙・普賢岳災害で失われた緑を復元することを目的に行われています。島原半島で卒業を迎える高校生を対象に、今年は10校から約500名の参加があり、ヤブツバキやイロハモミジ、タブノキなど10種類が植樹されました。



参加した生徒を前に宮本会長は、「苗木の育ちを自らの成長と重ね合わせながら新たな道を歩み、目標に向かって頑張ってもらいたい」とあいさつされました。

1999年から続くこの活動は、島原半島高校校長会や国土交通省雲仙復興事務所、NPO島原ボランティア協議会などの協力のもと、これまでに約4haにカエデ、ツバキ、ヤマボウシなど約3万本を植樹し、昨年も約700本もの苗木が高校生の手で植樹されました。永年の活動が実を結び森を形成する場所も増えてきました。

これらの功績により平成28年度には、林野庁長官賞を受賞されました。今後も下刈作業やつる切りなど、これまで植樹した場所の手入れをする育樹活動にも力を入れるそうです。

地域の高校生が続けてきた植樹活動により、今後どのような森がつくられていくのか楽しみです。緑を取り戻していくふるさとの森林を大切にする思いも未来につながっていくことでしょう。

（島原振興局 林務課）



平成30年度 翁頭中学校卒業記念植樹

はじめに

12月10日(月)、五島市にある翁頭山にて、平成30年度翁頭中学校卒業記念植樹が開催されました。

これは、卒業生に地元の山林に造詣を深めてもらうことを目的に、翁頭山森づくり協議会の主催で、毎年行われており、今年は17名の生徒が参加しました。



まず、登山口に参加者全員が集合して、登山を開始しました。

生徒の皆さんは、軽い足取りでしたが、一緒に参加した大人からは一部急勾配で「つらい。」といった泣き言(?)も出ていました。

森林学習



記念植樹の前に、振興局主催で森林学習を行いました。森林の働きを理解してもらう目的で、ヒノキの樹高などを測定し、そ

の値から森林が貯蔵している二酸化炭素量を計算してもらいました。生徒の皆さんは、なれない計算に四苦八苦しながらも、懸命に取り組んでいました。

みんなで記念植樹

記念植樹では、森づくり協議会の会員の指導の下、もみじと桜を植えました。卒業して大きく成長していく生徒の皆さんのように、植えた樹木も育っていった欲しいものです。



頂上からの眺望

植樹の後、頂上まで登りました。当日は天気もよく、遠くまで見渡すことができ、眺望を楽しむことができました。

今春卒業する生徒の皆さんにはよい思い出になったと思います。私たち林業職員としては、思い出と共に、森林の働きに興味を持ってくれる人が少しでも多くなることを願っています。

(五島振興局 林務課)

林業団体情報

平成31年春季の緑の募金活動期間が始まりました!!

緑の募金って?

きれいな空気、水、地球温暖化の防止など、私たちの豊かな生活を支え、多くの恵みを与えてくれる森林は、なくてはならない存在です。

「緑の募金」は、ボランティア団体による森林整備活動、住民参加の森林づくり活動及び緑化活動による緑豊かな環境づくり、また、次代を担う子供たちが緑と親しみ、緑を守り、育てる活動をお手伝いしています。

緑の募金による支援事業

緑の募金は、例年、春（3月1日～5月31日）と秋（9月1日～10月31日）を活動期間とし、街頭募金や職場募金を行っています。

本年も春の「緑の募金」が3月1日から始まり、緑化運動のシンボルである、緑の羽根の着用の呼びかけや緑化ポスターを関係団体に配布しました。

皆さんにご協力いただいた「緑の募金」は、下記の事業に活用されています。

○県民参加の森林づくり事業

各種任意団体、自治会、学校等が行う地域の植樹活動や記念植樹にかかる苗木購入代への助成。



○森林整備事業

ボランティア団体、市町、森林組合等が公共事業として選択できない事業や地域への植栽、間伐等経費の助成。

○幼稚園等緑化環境事業

園児の緑化意識を芽生えさせるため、施設内における環境緑化整備に対する助成。



○緑化推進事業

緑化をはじめ自然に親しむ緑化思想の普及啓発や花木等の配布・記念植樹等への助成。

○緑の少年団活動への助成事業

緑の少年団の公共施設等への花苗の植栽にかかる経費の助成。



今後も、「緑の募金」による事業を広く周知し、未来を担う子どもたちへの「森林環境教育」や「緑豊かな環境づくり」を推進していきます。

(公社)長崎県緑化推進協会

〒850-8570

長崎市尾上町3-1

(長崎県農林部林政課内)

Tel : 095-829-1827

Fax : 095-895-2596

Mail : n-green@herb.ocn.ne.jp

センターだより

創立120周年を迎えて — 近年の研究成果 —



はじめに

長崎県農林技術開発センターは、今年で創立120周年になります。

森林研究部門では、この21年間（平成10年～30年）に84の課題の研究に取り組んで参りました。森林の研究は多岐にわたり、新たな技術の開発に多くの研究員が携って来ました。この機会に、近年の試験研究成果の一部を振り返りご紹介いたします。

近年の研究成果

ヒノキ林での巻枯らし間伐では、間伐後4年間の肥大成長量は巻枯らし間伐と定性間伐に差はなく、間伐不足のヒノキ林で密度調整のために巻枯らし間伐を行うことは、有効な手段であることが分かりました。

長崎県人工林管理基準を長伐期施業に対応させるため、基本となる式の調製を行いました。長崎県ヒノキ人工林における地位指数曲線の調製では、40～50年生以降の樹高成長が上方修正され、80年生程度まで成長することが明らかになりました。

在来菌根菌を活用した海岸クロマツ林の管理方法の検討では、菌根菌が存在する海岸林において種子を播種すればクロマツに菌根菌が感染し、コツブタケの感染・定着を促進するためには、松葉掻きと木炭施用後のコツブタケ懸濁液の散布が効果的でした。

シイタケの菌床栽培では、低利用森林資源（マテバシイ・スダジイ）を活用した菌床栽培に取り組み、マテバシイ及びスダジイの細目おがこを従来の菌床に20%混合しても、質・量共に同等の子実体が発生しました。

原木シイタケを加害するシイタケオオヒロズコガの生態解明と防除技術では、シイタケオオヒロズコガによる被害が対馬市全体で確認されました。防除技術としてほだ木の一斉入れ替え、粘着紙による成虫捕殺が有効でした。

五島におけるツバキの研究では、長崎大学等の研究機関と連携し、「カメラア510」「PREMIUM PURE OIL」「つばき茶」を開発し製品化しました。また、ツバキの育成に関しては、断幹や植栽・育成技術を開発し、マニュアルを作成して現場への技術移転を行っています。

長崎県産ヒノキ板材の圧密加工技術の開発では、ヒノキの圧密処理は、圧縮固定温度150℃で固定時間を10分、その後、10日養生することで、表面硬さが上昇し、材の厚さとヒノキの材色が保たれた圧密材が製造可能であることが明らかになりました。

スギ・ヒノキ林におけるキバチ類の発生消長と被害実態調査では、ヒノキの台風被害林分及び伐捨て間伐実施林分において、ニホンキバチ、ヒゲジロキバチ、オナガキバチの3種類の発生が確認されました。成虫の発生時期は、ニホンキバチが6月下旬～10月中旬、ヒゲジロキバチが5月中旬～9月下旬、オナガキバチが5月上旬～9月中旬で、ニホンキバチの大発生は、立木の枯損または間伐後3年目には終息しますが、ヒゲジロキバチ、オナガキバチの発生は継続しました。

（農林技術開発センター）

紹介コーナー お箸工房 楽膳



お箸工房楽膳は建設業を本業とする株式会社山川が母体となって2010年に開店したお箸を専門として取り扱うお店です。

店内には所狭しと様々な種類のお箸が並べられています。近年は日本産の漆が減っており、現在流通している漆のおよそ1割程度まで減っていると言われていて、希少価値となっています。

箸は強度の関係から、秋田杉など寒冷地の材が好まれ、九州の木材はあまり用いられないですが、竹箸に関しては他の生産地に比べて太い材が多い九州産の竹がよく用いられるそうです。楽膳では、お好みのお箸に名前などの彫刻を無料で入れることができますので、贈り物等に世界に一つのお箸、いかがでしょうか。

お箸工房 楽膳

〒857-0875

佐世保市下京町7-23

電話：0956-24-3690

定休日：日曜日



伊万里木材市況

【ヒノキ】

平成31年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	17,200	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	15,600	少ない	多い	多い
	20~22	直	16,900	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	15,400	少ない	多い	多い

【スギ】

平成31年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,500	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

栗の植樹体験「くろんたふるさと会」

—諫早市高来町—

多くの山村地域は、過疎化、高齢化、イノシシ被害など深刻な悩みがあります。そんな悩みも吹き飛ばす団体が多良岳の中腹に位置する諫早市高来町黒新田地区で活動する「くろんたふるさと会」です。

黒新田地区は多良岳が育んだ澄んだ空気と透き通った水が自慢の小さな集落です。この地区を「今よりも愛されるふるさとにしたい」との思いで、2018年6月に発足しました。

会のメンバーは、発起人の久保絵美さんをはじめ、60代から2才のお子さんまで、遠くは長崎市から参加する人も。みんなこの「くろんた」が大好きな人達で構成されています。



くろんたふるさと会の皆さん

この会の活動は、耕作放棄地を耕し、地域の特産物になるように、和綿や蕎麦を育てたり、親子連れなどを対象とした農業体験を開催したりしています。

また、人が入らなくなった裏山を皆が集える楽しい山にしたいと、森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用し山の手入れや、昨年（2018年）には700メートルの作業道を作り、これからメンバーによる未来の森づくりがはじまります。

2019年2月24日（日曜日）春の日差しのようななか、森づくりの第一歩として林内の一部を利用し、栗の植樹体験が実施されました。多くの人に「くろんた」の自然を満喫してもらう為、可愛いイラスト入りチラシやSNSなどで発信し、募集期間が短かったにも関わらず6組25人の親子連れが参加され、

家族で協力して植えた栗の木の根元には、思い思いの文字や絵を描いたプレートを添えました。

参加者からは「普段、木を植えることはないので子どもに体験させることができ良かった」などの感想が聞かれました。



数年後、栗が実れば栗拾い体験なども開催する予定で木の成長と共に大きくたくましく成長した子ども達が、また「くろんた」に来てくれることを、今から楽しみにしているそうです。

参加した方々は、初めてこの地を訪れた人が多く、くろんたの澄んだ空気の中で、元気いっぱい騒ぎ、地元で採れた具材で作った豚汁やかまどで炊いたおにぎりなどを口いっぱいほおぼっていました。

高来町には、ふるさとを山を大好きな人が多いことに「山が人を呼んでいるのではないかと、ふと思いつきながら山を背にしました。

くろんたふるさと会の活動が気になる方は、HPを是非チェックしてみてください。

<https://kurontafurusatokai.jimdofree.com/>
(NPO法人 地域循環研究所)

長崎の林業 3月号 第762号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp